

2018 年 12 月における北部太平洋のマイワシ漁獲状況

1. マイワシ漁獲状況概要

12 月のマイワシ漁業は全般的に振るわなかった。八戸から石巻における主要 8 港のマイワシの 12 月の水揚量は 4,116 トンで前年同期 (6,542 トン) の 63% であった (表 1)。小名浜から銚子における主要 4 港のマイワシの水揚量は 818 トンで前年同期 (3,995 トン) のわずか 20% であった (表 2)。同海域のマサバ漁獲量の前年比は 133% であり、取引単価についてもマイワシよりマサバの方が高かったことから、マサバに漁獲が集中したためと考えられる。

表 1 三陸海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2018 年 12 月 (トン)	2017 年 12 月 (トン)	前年比
八戸	1,804	1,183	1.52
久慈	28	176	—
宮古	51	55	0.93
釜石	159	13	12.23
大船渡	295	1,039	0.28
気仙沼	159	580	0.27
女川	221	1,758	0.13
石巻	1,399	1,738	0.80
合計	4,116	6,542	0.63

(出典：おさかなひろば)

表 2 常磐海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2018 年 12 月 (トン)	2017 年 12 月 (トン)	前年比
小名浜	—	21	—
大津 (茨城)	—	222	—
波崎	—	388	—
銚子	818	3,364	0.24
合計	818	3,995	0.20

(出典：おさかなひろば)

2. マイワシの体長組成

金華山沖で今年 12 月中旬に定置網によって水揚げされたマイワシの体長組成は 13～15cm (0 歳魚、2018 年級群) が主体であった。前年同期に定置網によって水揚げされたマイワシの体長組成は 13～15cm (0 歳魚、2017 年級群) が主体で、16～18cm (1 歳魚、2016 年級群) も漁獲された (図 1)。水戸沖で今年 12 月下旬にまき網で漁獲されたマイワシの体長組成は 18～21cm (2 歳魚、2016 年級群) が主体であった。前年同期にまき網によって水揚げされたマイワシの体長組成は 17～19cm (1 歳魚、2016 年級群) が主体であった (図 2)。金華山沖、水戸沖ともに水揚げ物の体長組成は前年と違いが見られた。今年 12 月下旬には水戸沖まき網において 2 歳魚も漁獲されていることから、前年に比べて 2 歳魚の南下がやや早かったと考えられる。

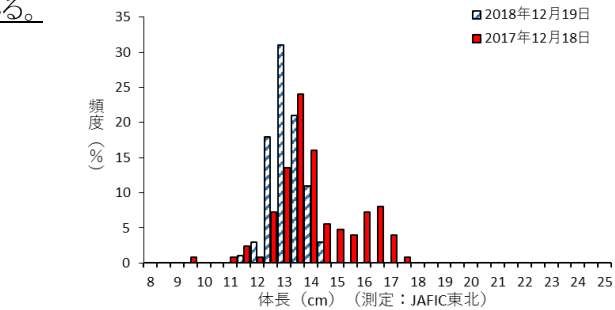


図 1 12 月中旬の金華山沖における定置網水揚げ物体長組成の前年比較

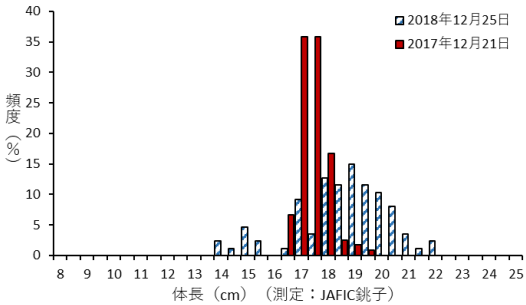
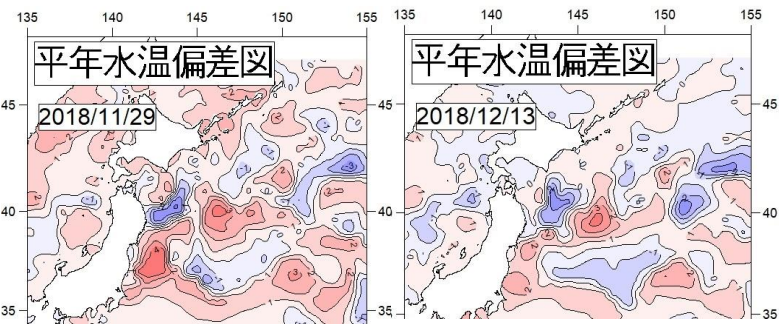


図 2 12 月下旬の水戸沖におけるまき網水揚げ物体長組成の前年比較

3. 海況の特徴



(青色部分は前年よりもマイナス、赤色部分はプラス)

図 3 11 月 29 日と 12 月 27 日における東北沖の表面水温前年偏差図

三陸北部は前年よりも 3～4℃ 低く、三陸南部～常磐～銚子にかけて 2～3℃ 高かった。11 月下旬までは前年に比べて南下が遅かったが、12 月中旬から水温が下がり、魚群の南下を促したと考えられる (図 3)。

4. 今後の予測

1 歳魚がさらに南下し、三陸沖では 0 歳魚主体で漁獲されると考えられる。常磐沖では 2 月ごろまでは 12 月に引き続き、1～2 歳魚主体で漁獲される。

(漁海況部)